

学校名：横浜市立港南台第二小学校

担当： 1 学年

氏名： 小林 聖音

1. 今回の研修における目的やねらい

教師の生の経験には子どもたちにとって心を動かされるものがあると感じる。今回私が経験し、感動したり、驚いたりしたことを授業の中に取り入れることで、子どもたちにとって異文化に興味をもつきっかけになってほしいと思っている。そうした思いの中で、3つのねらいをもって研修に参加した。

○子どもたちにカンボジアという国に興味をもってもらうこと

カンボジアという国は子どもたちにとって馴染みのない国である。日本で得る情報にも偏りがある。いろいろな側面からカンボジアという国を見つめていきたいと思った。

○カンボジアの人たちの思いや願いを知ること

観光では味わえない現地の方との交流の中で、クラスの子どもたちと同じ年の子どもたちが今何を考え、どんな生活をしているのか、お互いを比較することで見えてくるものもあるかもしれないと考えている。

○海外で活躍する日本人について知ること

国際協力というと、子どもたちの中ではユニセフ募金をする、ペットボトルキャップを集めるといったことしか浮かばないのが現状だ。しかしそうしたことだけでない、開発途上国における国際協力の現場を知ることとても大切であるとする。しかし、そうした人の存在は、あまり子どもたちに知られていないのが現状である。今回いろいろな場で活躍する日本人の存在を子どもたちに知らせることにより、広い視野で国際協力を考えることができるきっかけになればと思っている。

2. 目的やねらいがどのくらい達成されたか

○子どもたちにカンボジアという国に興味をもってもらうこと

カンボジアに着いてから、授業で使う写真を撮っている中、ついつい貧しさに目が行き、シャッターを押す自分がいた。一方でプノンペンのスーパーなど同じ国でも開発の進んだ場面を見る瞬間も多かった。まだまだいろいろな側面を見つけるには時間が必要であったが、都市と農村部などいろいろなところに行くことができたのは良かった。食べ物、住居、遊び、学校、子どもたちの生活などクラスの子どもたちが興味をもっている分野の資料を集めたので、今後、授業を行う中で、生かしていきたい。

○カンボジアの人たちの思いや願いを知ること

今回の研修で大学生や小学生と交流できたことは大きな収穫であった。そして、移動中も通訳のメイ・アンさんとたくさん話をすることができ、今のカンボジアという国についての理解も深まり、学ぶものが多かった。

しかし、小学生と交流し、質問をするにはこちらがクメール語が話せないということもあり、難しいことも多かった。今回みんなで同じ質問を共有することができたので、少しではあるが、現地の思いを子どもたちに伝えられるのでないかと考えている。“なぜ学校に行くのか”というような質問についてカンボジアの子どもたちと日本の子どもたちの答えの比較は興味深いものがありそうだ。

○海外で活躍する日本人について

いろいろな場で活躍する日本人に会えたこと、活動の話を聞くことができたのは大きい。個別にもっとバックグラウンドを学んでから会うともっと深く話を聞いたり質問したりすることができたかもしれない。授業

をするにあたって、そうした話をさらに深められるようにしていきたい。

3. カンボジア国から学んだこと

日本から離れて、カンボジアという国を知ろうと活動していたが、気付くと日本のよさや課題にも気付くことができたのが大きかった。

国際保健協力市民の会 (SHARE) の活動では、子どもの成長 (何歳で体重はどのくらいで、どんなことができるかなど) について村の代表者が学んでいたが、こうしたことは日本の学校では中学・高校の保健体育や家庭科の学習で学んでいる。学校教育の中で組み込めると解決が早い問題も多いのではないかと感じた。

国語、算数、英語という学習だけでなく、幅広く学ぶことの大切さを知るとともに、教育の大切さを実感した。日本では当たり前のことであるが、ルールを守ること、譲り合う助け合うことを学ぶのは、教育であると感じた。そう考えると学校の担う責任は大きい。教師としてこうしたことを今後も大切にしていきたいと感じた。

カンボジアの子どもたち、大学生と交流する中で、学校で学ぶことの意義について考えさせられた。日本の子どもたちはなんとなく、学校に行く、勉強させられている子どもも多い。一方でカンボジアの子どもたちは、知識を得たい、将来役立てたいという強い思いをもって学び、生活しているという印象を受けた。子どもたちが全員学校に行き、物があふれ豊かに見える日本であるが、カンボジアの人に学ぶことも多いと感じた。

4. 今回の研修経験をどのように教育活動に活用しようと思っているか

授業の中でクラスの子どもたちが事前学習でカンボジアについて興味関心をもっていたので、今回の研修で子どもたちの興味関心がさらに深まるような学習を展開できればと考えている。カンボジアという国についてプラスのイメージをもってカンボジアに興味をもち、好きになってもらえたらと思う。そしてそこから日本からたくさんの方が活躍しているという現実にも迫っていきたい。そのなかで、国際協力の現場についてしるきっかけとなってほしい。残念ながら、日本ではこうした活動をしている人の姿はなかなか知るチャンスがないのが現実だ。こうした活動を知ることで、子どもたち自身が感じることを大切にしていきたい。

あらゆる教育活動の中で

今回の研修に参加し、教育の大切さを改めて実感した。コン・ボーン氏の講演の中で、学校教育の中で、譲り合うこと、助け合うこと、ルールを守って生活することの大切さについて触れていた。国語、算数といった教科だけでなく、あらゆる教育活動で子どもたちの心が豊かになる活動をこれからも続けて取り組んでいきたい。

5. 今回の研修に参加してよかったことや、よりよくするための提案

今回の研修では、普段の観光では見ることができない場所や現地の方との交流がたくさんできたことは大変有意義であった。通訳のメイ・アンさん、JICAカンボジア事務所の小川さん、国際保健協力市民の会 (SHARE) の佐藤さん、海外ボランティアの伊藤 SV さん、徳富 JV さん、IKTT の森本さん、日本友好学園のコン・ボーンさん、田中千草さんなどたくさんの方のお話を伺い、いきいきと活動する方の姿を見て、自分もパワーをいただいたような気がした。貴重なお話をたくさん伺ったので、これからの教育活動に生かしていきたい。

研修にあたり、事前に参加者同士で質問事項をまとめておくなどの準備ができていたのでとてもよかったと感じた。資料やアイデアを共有することで、お互いよりよい授業準備ができると思う。

よりよくするための提案として、訪問場所でどんな活動があるのか、どんなことを詳しく知ることができるのかなど、事前に分かるともっとよいと思った。

今回、振り返りの時間があったことはとてもよかったが、振り返り時間が夜になると体力的にも厳しいものがあった。移動時間や食事中などの時間をうまく利用して振り返りができるとよいと思った。

昨年度の参加者と出発する前日に交流することができ、聞いたことは大変参考になった。しかし、もう少し前にお話を聞くチャンスがあったら、準備や授業のプランの上で、アドバイスを参考にすることができたと思う。小さなことでも参加者から聞くことはとても大切であると感じた。

6. その他、研修全般を通じての感想・意見など

カンボジアの国際協力の現場を実際見ることで、私自身が開発教育や発展途上国の問題を身近にとらえて、子どもたちに伝えていきたいと考えたのが今回の研修に参加した大きなきっかけであった。

私は7年前、観光でアンコールワットを訪れた。そこで見たものは驚きの連続であった。ほんの少しではあるが、ガイドさんのはからいで、学校を見せてもらったり、町からはなれた農村にも行ったりすることができた。日本に帰って、クラスの子どもたちに写真を見せると、遺跡よりもそこに住む人の生活にとっても興味をもち、たった数枚の写真であったが、質問がとまらなかった。しかし、子どもたちの疑問に観光でいった私には答えられるものが少なく、もっと現地の人々と交流ができれば、よりよい学習につながるのではないかと痛感した。

今回、クラスの子どもたちにカンボジアに行くということを伝え、事前学習を始めた。4月に入学したばかりで、ひらがながやっと書けるようになった子どもたちであるが、とてもカンボジアの学習を楽しみにしており、カンボジアの子どもたちにいろいろなことを質問したいと意欲を見せていた。砂場で遊んでいる際にもアンコールワットを作る子どもたちがいたり、自分たちの好きなものをカンボジアの子どもたちに伝えたいとアイデアを出したりする子もいた。おうちの方からもカンボジアのことを知るのを楽しみにしているという話をたくさん伺い、こうした素直な反応がとても嬉しかった。研修中は子どもたちの質問や興味をもっていることをしっかり頭の中に入れ、活動することができた。研修が有意義に過ごせたのも、子どもたちの支えが大きかったと思う。

研修に参加する前は、1年生の子どもたちにカンボジアのことを伝えるのは難しくないか、という思いもあった。しかし、1年生だから感じられる新鮮な気持ちもあることを、子どもたちを通して学んだ。そして、研修で多くのことを学び、感じた自分の素直な気持ちを子どもたちに伝えられたらと思う。

JICA横浜・カンボジアでお世話になった方々、一緒に研修に参加した皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。短い間でしたが、貴重な経験をし、有意義な時間が過ごせたのは皆さんのおかげです。ありがとうございました。

7. 今後の本研修参加者へのアドバイスなど

カンボジアに行く前にも数回研修があったり、報告書を作成したり、授業実践をしたり、活動は決して短いものではないが、どの活動も自分の気持ち次第でいくらでも学ぶことができると感じた。

研修中で大切なことは、様々な訪問先で“これはここで聞こう”ということイメージして活動するとよいと思った。船にのっている間、遺跡観光中など思わぬところでインタビューなど行える場合もある。そうした場面を見つけて臨機応変に対応することができると得るものも大きいと感じた。

事前に授業についてどんなことをするのか考えながら活動するとよいと思う。自分自身も行ってからでないアイデアが浮かばないと思っていたが、あまりにもイメージするものがないと様々な素材を教材にするには10日間では時間的に厳しい。今まで参加した方のレポートを参考にしたり、自分でその国について調べたりしておくとうよいと思った。教材を買う時間も限られている。これはいいな、授業に使える！と思うものを見つけたら迷わず買っておく方がよいと思った。

最後に大切だと感じたことは、自分で感じたことをメモしたり、振り返りの時間を有効に利用して、自分

の気持ちを整理したりすることではないかと思う。この場所でこう感じた、また人の考えを聞いて、自分の思いが深まることも多かった。また、相手に自分の意見を伝えるためには、自分でそのことについて深く考えることができる。自分の感じたこと、思ったことを参加者とたくさん交流できると学ぶものも多いと思う。

8. 各訪問先等の所感

日 時	テーマ	所 感
7月26日(火)	日本からカンボジアまでの移動中および現地到着	7年前に一度訪れたことがあったが、空港も街並みもずいぶん違っていた。プノンペン驚くほど都会で、驚いた。クメールの伝統料理がとてもおいしく、食が豊かな国であると感じた。
7月27日(水)	JICA カンボジア事務所表敬	JICA事務所はきれいなビルで、笑顔で皆さんが迎えてくださり、これからの研修にやる気もてる気がした。初めて義足を持ち、カンボジアは地雷がある国であると感じた。しかし、今はほかの国に義足の技術を伝えていると聞いて、カンボジア＝地雷の考えは古いのではないかと思った。
7月27日(水)	市内見学（現地マーケット視察）	ラッキーマーケットは欧米のマーケットそのまま、ここがカンボジアであることを忘れる空間であった。日本の調味料やお菓子もあって驚いた。隣の本屋さんでは日本の一寸法師の絵本やドラえもんの漫画がクメール語で書いてあるものもあり、驚いた。教科書は一年生の算数、国語、生活を購入した。内容が日本と似ている部分もあり、教材として使えるものがたくさんあった。
7月27日(水)	JICA 無償資金援助で建設された施設	日本からの援助でできているものがあるのは、聞いたことがあるが、実際に行ったのは初めてなので、とても驚いた。日本政府はこうした形をもっと紹介することで、援助の仕方も変わるのではないかと思った。
7月27日(水)	本日の振り返り	カンボジアの首都プノンペン“私たちが想像するカンボジアと違う”というのが一番の感想であった。しかし、この私たちのカンボジアに対するイメージとは何か？と考えるとイメージだけにとらわれない、いろいろな側面をもったカンボジアの国、人々にもっと迫っていきたいと思った。
7月28日(木)	カンボジア日本人材開発センター	日本語を学習している学生に日本のイメージを聞くと、「日本に対して、まじめで、カンボジアの国のことを考えて支援をしてくれている。仕事に熱心で、責任をもって取り組む姿がすばらしい。」客観的に日本って外からこんな風に思われているということを感じた。そして好奇心旺盛で、

		まじめな彼らに会い、これからのカンボジアがどのように変わっていくのか興味をもった。
7月28日(木)	本日の振り返り	大学生と交流し、これからのカンボジアに希望を感じた。学生さんたちと話をしていると子どもの頃から学校から帰って塾に行ったり、家の手伝いより勉強することを優先していたという話を聞いたり、日本と似ているところも多いのかと感じた。
7月29日(金)	国際保健協力市民の会 (SHARE)	村の代表の人が熱心に子どもの成長について勉強する姿に感心した。こうした活動が村の代表の人々の心に支えられている活動にも関わらず、みんなが熱心に取り組んでいて素晴らしいと思った。
7月29日(金)	本日の振り返り	日本では家庭科や保健体育の時間に学習する内容が、カンボジアでは行われぬという実態を知り、驚いた。しかし、こうした草の根の活動が、親の意識を変え、子どもたちが豊かに過ごすことにつながればよいと思った。そして、こうした活動が自分たちがいなくても続くことが大切であるということをお話して下さった佐藤さんの言葉が印象に残った。
7月30日(土)	アンコールワット	7年前にアンコールワットを訪れた際には、たくさんの物売りの子どもたちに囲まれた記憶があるが、今回は物売りの子どもたちにあまり出会わなかったのが、国が変わりつつあるのかと感じた。一つ一つの彫刻も細かく、お話になっている点も興味深かった。遺跡をみても昔の人の文化の高さを感じる。
7月30日(土)	クメール伝統織物研究所 (IKTT)	絹織物を柱に人々が生活する村ができているという実にシンプルな環境を目の当たりにし、人は自然の中で暮らしていたんだ、という当たり前のことに気付かされた。それは古くは日本の昔の姿であるように感じた。手作業で一つ一つのものを仕上げることは本当に大変なことであると思う。しかし、出来上がった品物にはそうした手造りのぬくもりを感じた。
7月30日(土)	本日の振り返り	「好きなことをやればいい、やりたいことをする、しかしその動機が大切である。」という森本さんの言葉を聞いて、はっと我に返る瞬間があった。なんとなく生きるのではなく、目的をもって生活することそれが、個々の向上心につながるのではないかと感じた。
7月31日(日)	クメール伝統織物研究所	かまどでご飯を炊き、外で鶏があるいている、家

	(IKTT)	<p>族とご飯を食べて団欒する部屋にはテレビがある、そんな昔の日本を思わせるような生活を垣間見た。子どもたちは外にあるもので遊びを考え、ルールを工夫して遊んでいる。私たちのインタビューに知っている日本語で答えてくれたり、人懐っこい子どもたちに出会ったり、心あられるような気がした。</p>
7月31日(日)	アンコールワット	<p>タプロム遺跡の壮大さに驚く。崩れてしまいそうな遺跡であるが、その存在感はすごい。アンコールワットの入場料がベトナム政府に流れているという事実にもびっくりした。</p>
7月31日(日)	本日の振り返り	<p>昔懐かしい日本の姿がIKTTの中にはあったような気がした。彼らに比べて私たちの生活は豊かであるのは言うまでもない。しかし、心は豊かであるかといわれると、答えることができない。私たちもIKTTに住む人、そうしたコミュニティーを作った森本さんに学ぶことが多いと感じた。</p>
8月1日(月)	カンボジア地雷対策センター博物館	<p>カンボジア＝地雷というイメージをもっている私たちであるが、地雷の除去は驚くほど進んでいるという現状を知ることができた。地雷で命を落とす人より交通事故で亡くなる人の方が多い、という現状には本当に驚いた。安く簡単に人を痛めつける道具がある、そして世界でまだ使われている国がある現実を私たちはもっと考えなければならぬ。</p>
8月1日(月)	海外ボランティア視察 (伊藤SV, 徳富JV)	<p>伊藤SVの活動についてカンボジアの教育システムと日本の教育システムの違いを感じた。学校に行かれない子がいる中、落第の制度があったり、途中で学校を辞めざるを得ない子どもたちの存在を知り、そうした制度が変わることができたらと感じた。一年生の算数で使うブロックがカンボジアで大活躍している話も興味深かった。</p>
8月1日(月)	母親教室 (就学前教育)	<p>子どもたちや親に歯磨きの仕方を教えていた徳富SVの一生懸命な姿が印象的であった。カンボジアの子どもたちに会う時に気になったのが子どもたちの虫歯の多さだ。こうした小さな活動を地道に続けていくことが大切であると感じた。</p>
8月1日(月)	夜間の識字教室	<p>識字教室は、本来は大人が対象であるようだが、夏休みということもあり、子どもたちであふれていた。暑い中、足の痛い竹の床、ゴキブリや蚊がいるそんな環境の中でも勉強しようと頑張る子どもたちや大人の姿に感心した。</p>

8月1日(月)	本日の振り返り	<p>母親教室で学ぶことにより、子どもと親の距離が縮まり、親が子どもに愛情をもてるようになることが大切であるという話を聞き、こうした活動がもっともっと広がってほしいと感じた。こうした活動が根付いたら、もっともっと子どもたちの心が豊かになると思う。</p> <p>近くの校長先生と話す機会があった。「子どもにやさしい学校をつくっていききたい」という言葉に日本もカンボジアも同じであると感じた。(子どもが参加型の授業、地域の人や親も参加できる学校、安全であること、ジェンダーをサポートする、教室で学力をつける、教育内容の向上)</p>
8月2日(火)	ワット・ポー小学校	<p>子どもたちの鼓笛隊の演奏で迎えられ、感動した。カンボジアの学校ではまだまだ力が入っていない音楽の教育に力を注いで活動されている田中先生にも感心した。</p>
8月2日(火)	コン・ボーン氏の講演	<p>コン・ボーンさんの壮絶な逃亡生活を聞き、平和な国で、育ち生活できる自分は恵まれているのだと感じた。だからこそ、一日一日を無駄にしないで生活することが大切だと感じた。そうした経験を持っているにもかかわらず、カンボジアで教育分野を支えたいという思いで今も活動する彼の姿を見て、カンボジアもこれからどんどんよい方向に向かってほしいと思った。</p>
8月2日(火)	本日の振り返り	<p>国を良くするには教育が大切、カンボジアの教育の質を上げたいと立ち上がったコン・ボーン氏の行動力に感動した。日本の教育からヒントを得て、お互いに譲り合う・助け合う気持ちを教えていきたいという話を聞き、改めて教育の大切さを痛感した。</p>
8月3日(水)	現地マーケット視察 (ロシアンマーケット)	<p>値切り交渉にも慣れ、マーケットの独特な雰囲気も楽しめるようになってきた。楽器やおもちゃなどを見つけることができた。</p>
8月3日(水)	トゥールスレン虐殺博物館	<p>日本の技術・人材育成が博物館運営に関わっているという話を聞いて、こうした技術も伝えているのだという現状を初めて知った。同じ国民同士が殺し合うとはなんて残酷なのだろうと感じた。そしてそれが数十年前のことであるという点。こうした負の歴史をこれから教訓に新しいカンボジアをつくってほしい。</p>
8月3日(水)	JICA カンボジア事務所 研修報告会	<p>こうした研修に参加できて本当に感謝している。いろいろな人の考え方なども聞くことができ、そ</p>

		<p>の中で自分の考えが深まることもたくさんあり、実り多い研修となってよかった。こうした機会を提供してくれた J I C A の方にも感謝している。</p>
8月3日(水)	本日の振り返り	<p>過去の歴史から私たちは何を学ばなければならないのか。今でもポルポト裁判が行われている中、真実を知るにはまだまだ時間が必要かも知れない。トゥールスレン虐殺の場で働かされていたのは少年少女と聞いて驚いた。こうした歴史を繰り返さないということを学校教育の中で伝え続けることが大切ではないかと感じた。</p>
8月4日(木)	カンボジアから日本までの移動中および日本到着	<p>空港でハプニングもあったが、安全に帰ることができてよかった。帰りも、いろいろな先生方と話すことができ、楽しく有意義な時間となった。</p>